

2024年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年4月15日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス

コード番号 2927 URL https://www.ams-life.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 浅山 雄彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役会長室長 (氏名) 南方 茂穂 TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 2024年4月15日 配当支払開始予定日 2024年5月17日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第2四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年2月29日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第2四半期	14,542	16.9	1,023	50.9	1,060	49.7	641	55.0
2023年8月期第2四半期	12,444	11.1	678	49.7	708	10.2	414	34.7

(注1) 2024年8月期第2四半期 売上高 : 対前年同期比 116.9%

営業利益 : 対前年同期比 150.9%

経常利益 : 対前年同期比 149.7%

親会社株主に帰属する四半期純利益 : 対前年同期比 155.0%

(注2) 包括利益 2024年8月期第2四半期 615百万円(64.0%) 2023年8月期第2四半期 375百万円(26.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第2四半期	45.79	45.74
2023年8月期第2四半期	29.46	29.45

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第2四半期	44,311	13,631	30.7
2023年8月期	41,071	13,157	31.9

(参考) 自己資本 2024年8月期第2四半期 13,601百万円 2023年8月期 13,108百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年8月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
	—	12.50	—	15.00	27.50
2024年8月期	—	15.00	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,455	11.2	1,801	10.1	1,788	8.1	1,123	1.9	80.42

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

(注2) 2024年8月期通期 売上高 : 対前期比 111.2%

営業利益 : 対前期比 110.1%

経常利益 : 対前期比 108.1%

親会社株主に帰属する当期純利益 : 対前期比 101.9%

※注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ②①以外の会計方針の変更：無
 - ③会計上の見積りの変更：無
 - ④修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年8月期2Q	14,387,699株	2023年8月期	14,387,699株
② 期末自己株式数	2024年8月期2Q	332,194株	2023年8月期	416,094株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年8月期2Q	14,011,750株	2023年8月期2Q	14,054,837株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、健康食品、化粧品及び医薬品の製造販売事業を核として、飲食業と合わせた観光事業、建設業と合わせた不動産開発事業を三本の柱に注力しております。昨年4月に開校した日本語学校に合わせ、旅行業、観光事業を昨年1月よりスタートさせ、また、ベトナム国の給食事業企業を昨年1月に連結子会社化いたしました。さらに、昨年8月中国重慶市に販売子会社を新設、昨年10月に不動産事業、建設事業、飲食事業等を展開する国内企業を連結子会社化し、売上規模の拡大を図りました。

業績につきましては、ヘルスケア事業におけるOEM及び海外販売の増収により、連結売上高は14,542百万円（前年同期比116.9%）となりました。利益面につきましては、増収効果により売上総利益が増加し、営業利益は1,023百万円（前年同期比150.9%）、経常利益は1,060百万円（前年同期比149.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は641百万円（前年同期比155.0%）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(ヘルスケア事業)

・OEM部門

広告表現に対する規制が強まる中で、機能を表示できる機能性表示食品全般の受注が堅調に推移いたしました。さらに、来客数の増加やインバウンド消費の回復等により、ドラッグストアをはじめとする店舗販売業の顧客における受注が増加いたしました。人材の採用・育成を中心に営業体制の強化を図っております。

生産面においては、更なる品質向上及び省人化を図るため、自動検査機等の増設を進めております。

・自社製品販売部門

海外販売は、コロナ収束に伴い既存顧客における美容商材の受注が回復基調で推移いたしました。加えて、育成中の外国人営業スタッフによる母国等での新規顧客獲得により受注が伸び始めております。店舗販売は、アフターコロナによる来客数の増加が売上に寄与いたしました。通信販売は、新聞への広告出稿等により新規顧客の獲得が順調に進みました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高8,785百万円（前年同期比119.9%）、営業利益1,400百万円（前年同期比148.9%）となりました。

(医薬品事業)

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医薬品事業の好調を牽引している一般用医薬品のOEM受注が増加したほか、医療用医薬品については、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活改善薬のジェネリック医薬品『シルデナフィル錠』『フィナステリド錠』『タダラフィル錠』が順調に売上を伸ばした影響が加わり、利益面において安定的に黒字が出せる体制となりました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高1,083百万円（前年同期比101.8%）、営業利益86百万円（前年同期比83.4%）となりました。

(百貨店事業)

当社グループ会社さいか屋藤沢店にヤマダデンキが昨年6月に開店して以降、入店客数の増加等、百貨店ゾーンとの相乗効果が得られたことに加え、賃料収入が拡大しました。これに続き、昨年9月より改装工事のため一時閉鎖した横須賀店地下1階に、食品スーパー「ヨークフーズ」が3月20日に開店したことにより、藤沢店と同様の効果を見込んでおります。さらに、今秋、藤沢店地下1階への食品スーパー「ライフ」開店に向けて改装前セールを1月下旬より開催し、売上増に寄与するとともに、来期以降の更なる賃料収入の拡大を見込んでおります。

グループのシナジー効果を活用した事業として、横須賀店では昨年12月8日に飲食店「天ぷらと手延べそうめん あさやま」、3月20日に飲食店「うなぎの佳川 さいか屋横須賀店」を開店いたしました。連日多くのお客様にご来店頂くなど好調な滑り出しとなっております。

以上の結果、百貨店事業の業績は、売上高2,640百万円（前年同期比93.7%）、営業利益40百万円（前年同期比318.2%）となりました。

(飲食事業)

なすび各店舗において全体的に回復傾向にあり、中でも法人関係の宴会や会食需要の回復が売上増に大きく寄与いたしました。昨年9月に日本テレビ系列の番組「ヒューマングルメンタリー オモウマイ店」にて紹介された「なすび総本店」は、ジャンボ海老フライ御膳が好評を得ております。利益面においても、作業効率の向上や原価の高騰に伴う価格改定により改善が進んでおります。

以上の結果、飲食事業の業績は、売上高1,032百万円（前年同期比147.9%）、営業損失2百万円（前年同期比119百万円の改善）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ823百万円増加し、20,698百万円となりました。この増加要因は主として、現金及び預金が877百万円、流動資産のその他が379百万円減少した反面、商品及び製品並びに販売用不動産が1,709百万円、受取手形及び売掛金並びに契約資産が173百万円、原材料及び貯蔵品が131百万円、仕掛品が70百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,415百万円増加し、23,612百万円となりました。この増加要因は主として、有形固定資産が1,763百万円、新規連結によるのれんの増加等により、無形固定資産が571百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,448百万円増加し、16,303百万円となりました。この増加要因は主として、短期借入金が1,037百万円、契約負債が188百万円、未払法人税等が76百万円、流動負債のその他が123百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,316百万円増加し、14,376百万円となりました。この増加要因は主として、長期借入金が1,182百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ474百万円増加し、13,631百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が439百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年10月13日の「2023年8月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,182,021	10,304,370
受取手形及び売掛金	2,842,149	2,970,382
契約資産	—	44,944
商品及び製品	1,502,111	1,876,948
販売用不動産	192,864	1,527,593
仕掛品	1,160,185	1,230,776
原材料及び貯蔵品	1,507,705	1,639,000
その他	1,502,050	1,122,412
貸倒引当金	△14,023	△17,688
流動資産合計	19,875,063	20,698,740
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,127,957	6,629,571
土地	10,057,600	10,664,076
その他（純額）	959,350	1,614,482
有形固定資産合計	17,144,907	18,908,129
無形固定資産		
のれん	1,289,580	1,842,614
その他	91,937	110,699
無形固定資産合計	1,381,518	1,953,313
投資その他の資産		
その他	2,729,298	2,809,515
貸倒引当金	△59,039	△58,304
投資その他の資産合計	2,670,259	2,751,211
固定資産合計	21,196,685	23,612,654
資産合計	41,071,748	44,311,395
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,265,335	3,271,609
短期借入金	8,217,906	9,255,082
未払法人税等	368,337	445,325
賞与引当金	170,085	186,442
契約負債	1,567,449	1,756,123
その他	1,265,296	1,388,803
流動負債合計	14,854,410	16,303,386
固定負債		
長期借入金	11,319,911	12,502,651
役員退職慰労引当金	255,807	274,505
退職給付に係る負債	736,923	733,896
その他	747,242	865,248
固定負債合計	13,059,885	14,376,301
負債合計	27,914,295	30,679,687

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,638,998	2,650,057
利益剰余金	8,589,284	9,029,238
自己株式	△353,345	△285,984
株主資本合計	13,006,776	13,525,151
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,440	△9,226
為替換算調整勘定	30,278	37,462
退職給付に係る調整累計額	52,327	47,949
その他の包括利益累計額合計	102,045	76,184
新株予約権	—	15,721
非支配株主持分	48,630	14,649
純資産合計	13,157,452	13,631,707
負債純資産合計	41,071,748	44,311,395

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
売上高	12,444,800	14,542,980
売上原価	7,773,291	9,289,257
売上総利益	4,671,508	5,253,723
販売費及び一般管理費	3,993,212	4,230,260
営業利益	678,295	1,023,462
営業外収益		
受取利息	2,022	1,831
受取配当金	5,892	2,584
投資有価証券売却益	17,478	37,045
助成金収入	15,262	—
償却債権取立益	—	10,000
有価証券償還益	—	26,127
その他	19,909	30,118
営業外収益合計	60,565	107,707
営業外費用		
支払利息	27,298	39,510
投資有価証券売却損	46	83
その他	3,275	31,036
営業外費用合計	30,620	70,629
経常利益	708,241	1,060,539
特別利益		
固定資産売却益	207	375
債務免除益	46,838	—
新株予約権戻入益	332	—
その他	74	169
特別利益合計	47,452	544
特別損失		
固定資産売却損	7	1,334
固定資産除却損	17,659	3,546
投資有価証券評価損	—	3,206
店舗閉鎖損失	28,277	—
火災損害等損失	—	8,430
事業構造改善費用	93,561	10,619
その他	—	170
特別損失合計	139,506	27,308
税金等調整前四半期純利益	616,187	1,033,776
法人税、住民税及び事業税	261,989	394,442
法人税等調整額	△62,492	△2,204
法人税等合計	199,496	392,238
四半期純利益	416,690	641,538
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2,635	△57
親会社株主に帰属する四半期純利益	414,054	641,596

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2024年2月29日)
四半期純利益	416,690	641,538
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△37,299	△28,667
為替換算調整勘定	△1,451	7,477
退職給付に係る調整額	△2,297	△4,377
その他の包括利益合計	△41,048	△25,568
四半期包括利益	375,642	615,970
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	372,376	615,983
非支配株主に係る四半期包括利益	3,265	△13

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	616,187	1,033,776
減価償却費	397,846	428,240
のれん償却額	78,323	98,296
賞与引当金の増減額(△は減少)	20,240	16,357
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7,775	18,697
受取利息及び受取配当金	△7,914	△4,415
支払利息	27,298	39,510
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△37,045
固定資産売却損益(△は益)	△199	959
固定資産除却損	17,659	3,546
投資有価証券評価損益(△は益)	—	3,206
助成金収入	△15,262	—
債務免除益	△46,838	—
新株予約権戻入益	△332	—
事業構造改善費用	93,561	10,619
売上債権の増減額(△は増加)	△118,118	54,406
棚卸資産の増減額(△は増加)	△295,793	△1,202,775
仕入債務の増減額(△は減少)	△12,494	△73,184
未払消費税等の増減額(△は減少)	△24,827	7,337
その他	△290,496	△305,252
小計	446,612	92,280
利息及び配当金の受取額	7,902	5,210
利息の支払額	△28,271	△39,567
助成金の受取額	35,101	—
法人税等の支払額	△63,988	△322,770
営業活動によるキャッシュ・フロー	397,356	△264,847
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△725,141	△1,695,787
有形及び無形固定資産の売却による収入	269	92,437
投資有価証券の取得による支出	△262,357	△418,633
投資有価証券の売却による収入	281,773	537,622
敷金及び保証金の差入による支出	△8,682	△3,634
敷金及び保証金の回収による収入	44,731	—
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△114,146	—
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	69,665
その他	△7,578	63,893
投資活動によるキャッシュ・フロー	△791,130	△1,354,435
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,178,242	523,062
長期借入れによる収入	72,510	643,000
長期借入金の返済による支出	△91,028	△308,318
配当金の支払額	△209,886	△208,898
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△601	△596
その他	△25,579	59,288
財務活動によるキャッシュ・フロー	923,657	707,537
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,883	4,095
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	527,999	△907,650
現金及び現金同等物の期首残高	10,257,778	11,062,021
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,785,778	10,154,370

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	その他 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	7,326,508	1,064,101	2,816,517	697,983	539,688	12,444,800	—	12,444,800
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	7,326,508	1,064,101	2,816,517	697,983	539,688	12,444,800	—	12,444,800
セグメント利益又は 損失(△)	940,267	103,468	12,788	△121,317	△1,997	933,209	△254,914	678,295

(注) 1. セグメント利益の調整額△254,914千円は管理部門に係る全社費用の内、各報告セグメントに配賦していない費用等であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。また、各セグメント利益は、のれんの償却(百貨店事業：45,705千円、飲食事業：30,789千円、その他事業：1,827千円)控除後になります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

5SPRO Joint Stock Companyの株式を取得し、同社を連結の範囲に含めたことに伴い、「その他事業」セグメントにおいてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は109,647千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	その他 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	8,785,847	1,083,112	2,640,180	1,032,381	1,001,459	14,542,980	—	14,542,980
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	36,282	—	1,701	5,400	10,242	53,626	△53,626	—
計	8,822,129	1,083,112	2,641,882	1,037,782	1,011,701	14,596,607	△53,626	14,542,980
セグメント利益又は 損失(△)	1,400,009	86,341	40,705	△2,090	△166,748	1,358,218	△334,755	1,023,462

- (注) 1. セグメント利益の調整額△334,755千円は管理部門に係る全社費用の内、各報告セグメントに配賦していない費用等であります。
2. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。また、各セグメント利益は、のれんの償却(百貨店事業：45,705千円、飲食事業：33,552千円、その他事業：19,038千円)控除後になります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

クレアライズ株式会社の全株式を取得し、同社を連結の範囲に含めたことに伴い、「飲食事業及びその他事業」セグメントにおいてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は650,007千円ですが、当該のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	ヘルスケア 事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	その他事業	
売上高						
OEM部門	4,399,033	—	—	—	—	4,399,033
海外部門	1,004,594	—	—	—	—	1,004,594
自社製品販売部門	1,865,223	—	—	—	—	1,865,223
その他	57,656	1,064,101	2,804,612	697,983	524,952	5,149,306
顧客との契約から生じる収益	7,326,508	1,064,101	2,804,612	697,983	524,952	12,418,158
その他の収益	—	—	11,905	—	14,735	26,641
外部顧客への売上高	7,326,508	1,064,101	2,816,517	697,983	539,688	12,444,800

(注)その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等でありま
す。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年9月1日 至 2024年2月29日）

（単位：千円）

	報告セグメント					合計
	ヘルスケア 事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	その他事業	
売上高						
OEM部門	5,080,805	—	—	—	—	5,080,805
海外部門	1,738,310	—	—	—	—	1,738,310
自社製品販売部門	1,850,587	—	—	—	—	1,850,587
その他	116,144	1,083,112	2,630,103	1,032,381	943,088	5,804,830
顧客との契約から生じる収益	8,785,847	1,083,112	2,630,103	1,032,381	943,088	14,474,533
その他の収益	—	—	10,076	—	58,370	68,447
外部顧客への売上高	8,785,847	1,083,112	2,640,180	1,032,381	1,001,459	14,542,980

（注）1. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）に基づく不動産賃貸等でありま
す。

2. 当第2四半期連結累計期間より、従来、「自社製品販売部門」に含めておりました海外部門の売上高を区分して
表示しております。理由としては、自社製品販売部門に占める割合が高く、数値管理精度を上げるためであります。
この表示方法を反映させるため、前第2四半期連結累計期間について、注記の組替えを行っております。この結果、
前第2四半期連結累計期間において、組替え前に比べ「自社製品販売部門」が1,004,594千円減少しております。

（重要な後発事象）

（重要な子会社同士の合併）

当社の子会社である株式会社エーエフシー不動産及び2023年10月2日に株式取得（みなし取得日2023年11月30日）
しましたクレアライズ株式会社とそのグループ会社は、2024年2月1日開催の臨時株主総会において、2024年3月6
日を合併期日とした以下の内容を決議し、2024年3月6日付で吸収合併いたしました。

1. 合併の目的

グループ経営の効率化による収益性の向上と、機動的な組織体制を構築し、職場環境等の改善を図るため、
本吸収合併を行うことといたしました。

2. 合併の要旨

（1）合併の日程

吸収合併決議臨時株主総会 2024年2月1日

合併期日 2024年3月6日

（2）合併の方式（内容）

①株式会社エーエフシー不動産を存続会社としてイノベーションアンドディベロップメント株式会社及び
クレアライズ株式会社を消滅会社とした吸収合併。

株式会社エーエフシー不動産は株式会社AFCスマイル不動産に社名変更。

②スマイスホーム株式会社を存続会社として伸栄建装株式会社及びスマイルパートナーズ株式会社を消滅
会社とした吸収合併。

スマイスホーム株式会社は株式会社AFCスマイル建設に社名変更。

③FSC株式会社を存続会社としてプレアス株式会社を消滅会社とした吸収合併。

④スマイルライフプラス株式会社を株式会社AFCスマイルプラスに社名変更。

（3）実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事

業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理を行う予定です。

(子会社の増資)

当社は、2024年3月7日開催の取締役会において、当社子会社である以下4社の増資引受及び2024年3月22日を払込期日とすることを決議いたしました。

なお、四半期報告書提出日（2024年4月15日）現在、払込みは完了しております。

1. 増資の目的

子会社の自己資本の増強を図るためであります。

2. 子会社の概要

(1)商号	株式会社AFCスマイル不動産
(2)所在地	静岡市駿河区曲金二丁目5番38号
(3)代表者	代表取締役会長 浅山忠彦
(4)資本金	10,000千円
(5)増資後の資本金	99,000千円
(6)事業内容	不動産業
(7)当社の出資比率	100%
(1)商号	株式会社AFCスマイル建設
(2)所在地	静岡市駿河区曲金二丁目5番38号
(3)代表者	代表取締役会長 浅山忠彦
(4)資本金	30,000千円
(5)増資後の資本金	99,000千円
(6)事業内容	建設業
(7)当社の出資比率	100%
(1)商号	FSC株式会社
(2)所在地	静岡市駿河区曲金二丁目5番38号
(3)代表者	代表取締役会長 浅山忠彦
(4)資本金	10,000千円
(5)増資後の資本金	99,000千円
(6)事業内容	飲食業
(7)当社の出資比率	100%
(1)商号	株式会社AFCスマイルプラス
(2)所在地	静岡市駿河区曲金二丁目5番38号
(3)代表者	代表取締役会長 浅山忠彦
(4)資本金	30,000千円
(5)増資後の資本金	99,000千円
(6)事業内容	不動産業
(7)当社の出資比率	100%